

# 解説

## 附属小学校 和氣拓巳 教諭 「形成的評価を踏まえた自己評価による「省察的・批判的思考力」の育成

コンピテンシー育成開発研究所 特任准教授 下島泰子

この取り組みは①の「テーマ単元学習」における自己評価能力についてまとめたものである。文部科学省は「学習評価の在り方について」において「子供たちが学びの見通しを持って、粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげるという、主体的な学びの過程の実現」の観点を打ち出している。

途中経過の「中間報告」において生徒が単元前半の学びを報告し合い学びの改善を図っている。単元の終わりには「自己評価共有」で自己評価の点数の理由を語り合い、他者の評価も得るという「省察的思考力」「批判的思考力」を育成する学びである。多面的な評価が重要視されている中で、教師による学習途中の形成的評価ではなく、生徒たちが自ら行い、他の生徒と評価し合う点が注目に値する。「記録することで新しい発見があり、考えの整理につながるということ」、「振り返りを誘発する声かけ」の必要性という教諭の指摘が、振り返りの意義を表している。